

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390300509		
法人名	医療法人 愛生会		
事業所名	第2グループホーム愛生		
所在地	熊本県人吉市南泉田町115		
自己評価作成日	平成 年 月 日	評価結果市町村受理日	平成27年 4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成27年 2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出・外食計画 ホーム内での調理 訪問看護・医療との連携 学習療法 季節の行事 ≪ハード面≫太陽光発電・天然温泉・防火耐火建築
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、医療法人に属しており、医療機関や訪問看護ステーションもすぐ近くに位置しています。緊急時の対応や夜間の受診についても、訪問看護師と医療機関が連携を取り、適切な医療が受けられる様支援しています。また昨年からは、協力医による訪問診療も可能になったとの事で、希望があれば看取り支援にも取り組むそうです。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で作った理念を施設内に掲示している。朝礼時には唱和している。終礼時には実行出来たかチェックリストに記入するようにし確認出来るようにしている。	安心・信頼・真心・チームワーク・笑顔を理念として掲げている。毎日の朝礼時に唱和を行うことで、共有に努めている。また今年度からは、終礼時に職員一人一人が出来たかどうかをチェックする事も始めており、理念の実践への取り組みが始まっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベント時には地域のボランティアを募って地域の方に参加をして頂いている。よかもん市を継続しており毎月第3火曜日に開催し近所のスーパーに来ていただき買い物を楽しんでいただいている。	同法人では、事業所合同で文化祭や夏祭りを行っている。その際は、地域のシルバーボランティアの協力を得て会場づくりや舞台設営を行っている。また、利用者の家族の出店もあるとのことである。その他、恒例となっている“よかもん市”も近所のスーパーの協力を得て行われている。	今後は、地域の行事にも参加できるところはないか、地域の一員として貢献できるところはないかを考えてみてはどうでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームヘルパー養成研修の施設実習を受け入れている。ボランティアスクールを受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域での行事予定や町や地域の現状などの情報を聞いている。また利用者様の状態を聞いて頂き、災害や徘徊の際に役に立つように情報発信をしている。	運営推進会議は偶数月の第3木曜日に行われている。外部からのメンバーとしては、市の担当者、社協職員、民生委員となっている。家族にも案内してはいるが、曜日などの関係で出席には至っていない。会議の内容としては、利用者の状況や事業所の取り組みなどについて報告し、意見や助言をもらっている。また現在、徘徊のある利用者もおられるようで、メンバーには情報提供も行っている。	会議は、事業所の内容や取り組みを知ってもらい良い機会です。メンバーはいろいろな方面の方にも参加をお願いしてみたいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議やファックスなどにて感染症・研修会などの情報をいただいている。	市役所主催のカルチャーパレスで行われる研修会には、出来るだけ参加するようにしている。介護保険の申請や更新、また事故報告などの際には、市役所に出向いて担当者との面談を行っている。運営上分からない点や、判断に迷うところがあれば、いつでも相談できる関係を築いている。	

第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修を行っている。専門誌などでも学べるようにしている。	事業所では、職員が交代で講師役を努め、毎月いろいろな課題について勉強会を行っている。身体拘束だけを取り上げるのは、年に1回程度である。教材として、主に認知症最前線という情報誌を利用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を行っている。専門誌などでも学べるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見人制度を利用されておられる利用者様がおられた為学ぶ良い機会となっている。職員研修を行っている。専門誌などでも学べるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をいただき十分納得された上で契約をしている。薬の変更や病状の説明など必ず御家族様へ連絡するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス会議等で御家族様の意見を聞く機会がある。	約半数の家族は遠方に居住されているようで、サービス会議などで連絡を取る際に、意見や要望について聞くようにしている。その他の家族については、面会時などを利用して、気になっている点はないか聞くようにしている。また、第三者苦情処理機関のポスターはエレベーター内に掲示している。	家族からは、中々本音は言いにくいと思います。これからは常に謙虚に耳を傾ける姿勢と、話し易い雰囲気づくりに取り組んで欲しいと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議を行い意見や提案を出し話し合いを行っている。職員誰もが疑問等あった際はいつでも話合えるような雰囲気です仕事をしている。	管理者も一般の職員と同じように介護職を兼ね、夜勤も行っている。疑問点などが発生すれば、いつでも話し合えるように心掛けている。また、管理者からも声を掛けるようしており、職員からは話し易い環境という言葉が聞かれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	気分転換にスポーツ大会や忘年会など行っている。希望休みは取れるようにしている。		

第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	掲示版にて研修の情報を公開しておりいつでも見れるようになっている。また必要な研修は申し送りをしている。職員研修に関しては自分で調べ講師役となって研修会を毎月行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会にて情報交換し問題解決に役立っている。連絡会の研修会にも参加している。熊本県グループホーム全国大会に参加した。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期は出来るだけ本人様とご家族様とお話しをして色んな事を聞いてどういう人なのか知ることを大事にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族から意見を聞きその要望に近づけるようにしている。サービス担当者会議を開き御家族様他職種に参加していただきサービスにつなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談あった際は問題点を考え法人内外のサービス利用も含めた検討を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なるべく簡単な身の回りのことはして頂いているが年月が過ぎるごとに出来ないことが増えてきている。洗濯畳などは職員と一緒にして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は出来るだけ多く来て頂くようにお話している。御家族様と毎週部屋で食事をされたり外食に行かれたりされている。正月には自宅に戻られ一泊された方がおられる。病院受診なども御家族が連れて行かれる所もある。		

第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へドライブへ行ったり誕生日にケーキ屋さんでケーキを食べにいたりしている。近所には天満宮があり散歩のついでにお参りをしたりしている。施設前はおくんちのコースでありおくんちの日には見学をしている。	近所の方が地域の情報を知らせに来られたり、お弟子さんだった人が訪ねて来られたりなど、現在も馴染みの関係が続いている利用者もおられる。また、遠方から息子さんが面会に来られた場合などは記念写真を撮っているそうで、その他には、人吉梅園や植木市など、馴染みの場所への支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の席には気をつけて利用者様の関係を考えながら席決めをしている状態に合わせ変更し関係がうまく行かず一人で食事をされる方には職員と一緒に食事をとったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ行かれた方へ散歩のついでに逢いに行ったりしている。他の事業所にて亡くなられた際には通夜に参列し御家族様に当時のお話をしたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様本位の意見を尊重して全体としてのケアではなく一人一人の認知症の状態を見ながら対応している。疲れた時は休んでもらい暇な時は本人様がやりたいことを職員が見つけ行って頂くようにしている。	日々の係わりの中で、気づいたことや変わったことを申し送りノートやケース記録に記録するようにしている。また、特に重要と思われることは、カルテに記録するようにしている。そういう中から、思いや意向の把握に努めている。職員から“行動をよく観察する必要がある”、“利用者の行動には、一つ一つに意味が有る”などの話が聞かれた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族から昔はどう過ごすされておられたのか聞き出しました利用者様の生活リズムや話を聞いて把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や申し送り・申し送りノートなどを使って把握している。		

第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画が実行されたかどうかを毎日チェックを行いモニタリングにつなげている。介護計画作成前には担当者会議を開き御家族様や訪問看護からの意見を聞いて作成している。月に一度ホーム会議を開いて意見を聞いている。	介護計画は、担当者会議を開いて作成している。家族が出席できない場合は、暫定的な計画を作成した上で、話し合いを行っている。また、面会を利用して行うこともある。介護計画の実行状況については毎月行っており、三ヶ月に一度はモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日日誌を記録し変わったことがある際はケース記録にも記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様の都合にあわせ訪問歯科を依頼したり。皮膚科受診などの代行をしている。またオムツ類や必要なものの買い物を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふれあい市として地元のスーパーに来てもらい好きなものを買って頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の了解を得て法人内の医療機関をかかりつけ医として訪問診療を受けている。必要時に他の医療機関の受診も行っている。	現在、全利用者が法人内の医療機関をかかりつけ医としている。夜間の対応が可能なことや、昨年からは協力医による訪問診療も始まったということで、家族の安心にもつながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の訪問看護ステーションと連携し毎週水曜日に健康チェックを行ってもらっている。その際に指導や指示をもらい緊急時には夜間でも連絡にて対応もしてもらっている。サービス担当者会議を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎月の管理者会議や入退院調整会議が毎週あり法人内事業所との情報交換を行っている。		

第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	延命意思確認書を作成しており緊急時のことや延命については病状悪化した際には御家族様やDr・訪問看護との話し合いを行うようにしている。	協力医による訪問診療が可能となったことで、看取り支援の検討が行われている。本人・家族から希望があれば、訪問看護師と管理者で家族への説明を担当する。ただ、職員の研修については、これからである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年普通救命講習を全職員が受けるようにしている。急変の可能性のある方は病院・Dr・訪問看護・御家族との話し合いをするようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っているが地域の参加は行っていない。人吉市の災害模擬訓練に参加している。災害用の避難グッズ購入と備蓄を行っている。	避難訓練は、年に2回実施している。その内1回は、消防署の指導のもと行われている。事業所は3階にあり、同法人の他事業所との合同訓練となっている。今のところ、地域との協力体制は築かれていない。	事業所は3階ということもあり、年に2回の合同訓練の他にも、定期的に防災に備える意識づけを行って欲しいと思います。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	男子トイレにはカーテンをつけた。オムツ類は見えない所に置いてある。毎日の理念にて意識づけしている。	理念に「私たちは、思いやりの心で寄り添い利用者様を支えます。」と謳われています。管理者の話では「会話ができない利用者に対しても話をもちかけ、寄り添うようにしています。」とのことであった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が出来る方には入浴前には衣類の選択を行って頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ入居者様のペースで寝たい時に休んで頂いたりしている。		

第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	誕生日にくしや鏡をプレゼントしたり朝からかわいらしいピン止めで髪の毛を束ねたりしていただいている。髪の毛が伸びたら訪問の美容師さんに切っていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士の献立になっているが行事食など利用者様からの意見などを聞いて考えてある。またホーム内での行事の際にはお店からお弁当やはちもりを買ったりして食事を楽しんで頂いている。後片付けをして頂くこともあるが準備や手伝いなどは出来ないことが多くなってきている。	献立は栄養士が作成しており、調理については、職員が交代で担当している。誕生会などの行事食については、事前に聞き取りを行ったうえで、特別メニューとなっている。また、花見などを行う場合には、鉢盛を取り寄せ、アルコールもあるとのことで、とても喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が毎日献立を決めている。水分量のチェックは毎日おこなっており水分摂取が困難な方にはゼリーやジュースなどにて対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が毎食後に口腔ケアを行っている。異常がある方は歯科受診や訪問歯科にて対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけズボンの上げ下げやなどの声かけをおこなっている。排泄チェックを行い排泄パターンをつかんでいる。	排泄チェック表をつけており、時間による声掛け、誘導を行っている。その他、立ち上がる、表情が変わる、前かがみになる、動き回るなどのひとりひとりのサインにも注意し、トイレでの排泄を支援している。排便がない日が続くような場合には、朝礼で共有を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェックや運動量の確認を行っている。乳製品を2日に一度出すようにしている。体操は毎日行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴で曜日別に決めているが本人の体調や希望、タイミングに合わせて時間の変更や曜日の変更をしている。また入浴拒否のある方はタイミングを考えて入浴していただくたり入浴前に気分がのりやすいことをして頂いてから誘いかけを行うなどしている。	事業所は、桧の湯船に天然温泉を引いている。週3回のペースで支援しており、時間は午前と午後それぞれで行っている。入浴日は大方決まっているが、その日の体調や希望、またタイミングにより柔軟に対応している。	



第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	おむつ交換により入眠の妨げにならないように時間ももつパット類をしようしたり。フロアにはマッサージ機の設置や畳・ソファのを設置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服はの説明書はファイルに保管しており職員がいつでも見れる状態にしており薬の変更があった際は必ず申し送りしている。内服薬のセットは毎日夜勤者がしており薬の把握は出来ている又症状の変化により薬を変えてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割としては台拭きや洗濯たたみなどをして頂いている。楽しみとして嗜好品の提供を毎日している。活動としては外食・散歩・ドライブ・カラオケ・歌などで楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族様と良く外食をされる方もおられ又正月にはお泊りや地元の行事に参加される方もおられる。昨年は職員と訪問看護の協力により海にドライブすることが出来た。桜の花見の時期には村山公園に毎年食事を持って出かけている。	利用者の体力も衰える中、昨年は訪問看護師の協力を得て、芦北の海岸までドライブに出かけている。皆さん大変喜ばれたようである。また日常的には、天神さん折り返しや東小学校への散歩を心がけているが、中々思うようにいかないようである。その他、季節の風物詩として、梅やコスモス、彼岸花などの見物にも出かけている。	これから、一日一日暖かくなり、体も動かし安くなります。新緑を見ながら、気分転換やストレス発散の支援をお願いします。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本自己管理が出来ない方は預かり金としており職員が管理している。買い物希望される方には預かり金よりお金を渡して買ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っておられる方は自由に電話をかけられておられる。その他の方は希望時には電話をかけたり連絡あった際は電話に出て頂いたりしている。御家族様には毎月広報をだして状況報告をしている。		

第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにホーム内に飾り物をして模様替えをしている。利用者様の状態に合わせてテーブルや席の変更を行っている。掲示板には行事の写真を掲示したり写真立てに集合写真を貼りいつでも見れるようにしている。	事業所は3階にあり、利用者の皆さんが集われる共用空間は、とても明るく落ち着いた雰囲気である。ちょうど訪問した日も生け花の先生が来られ、色とりどりのチューリップなどを生けておられた。室内が華やかになり、利用者の笑顔がとても印象的であった。また、自垂塩素加湿器なども配置し、室内環境にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにマッサージ機や畳の部屋をおいている。廊下にもソファをおいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅より持って来られたダンス・仏壇テーブル・ソファなどを持ってきてもらい御家族様と話ながら設置している。壁掛け(手芸の作品)なども持ってこられている。	基本的な設備は、ベッドと空調機器となっている。家具や調度品については、今まで使用してきた慣れ親しんだものを持参してもらう様に話している。利用者の居室には、テレビや仏壇を持っている方もおられ、落ち着いた生活が出来ているようである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・洗面所などの表示をわかりやすく文字を拡大して貼っている。部屋の名前も拡大して貼っている。		